

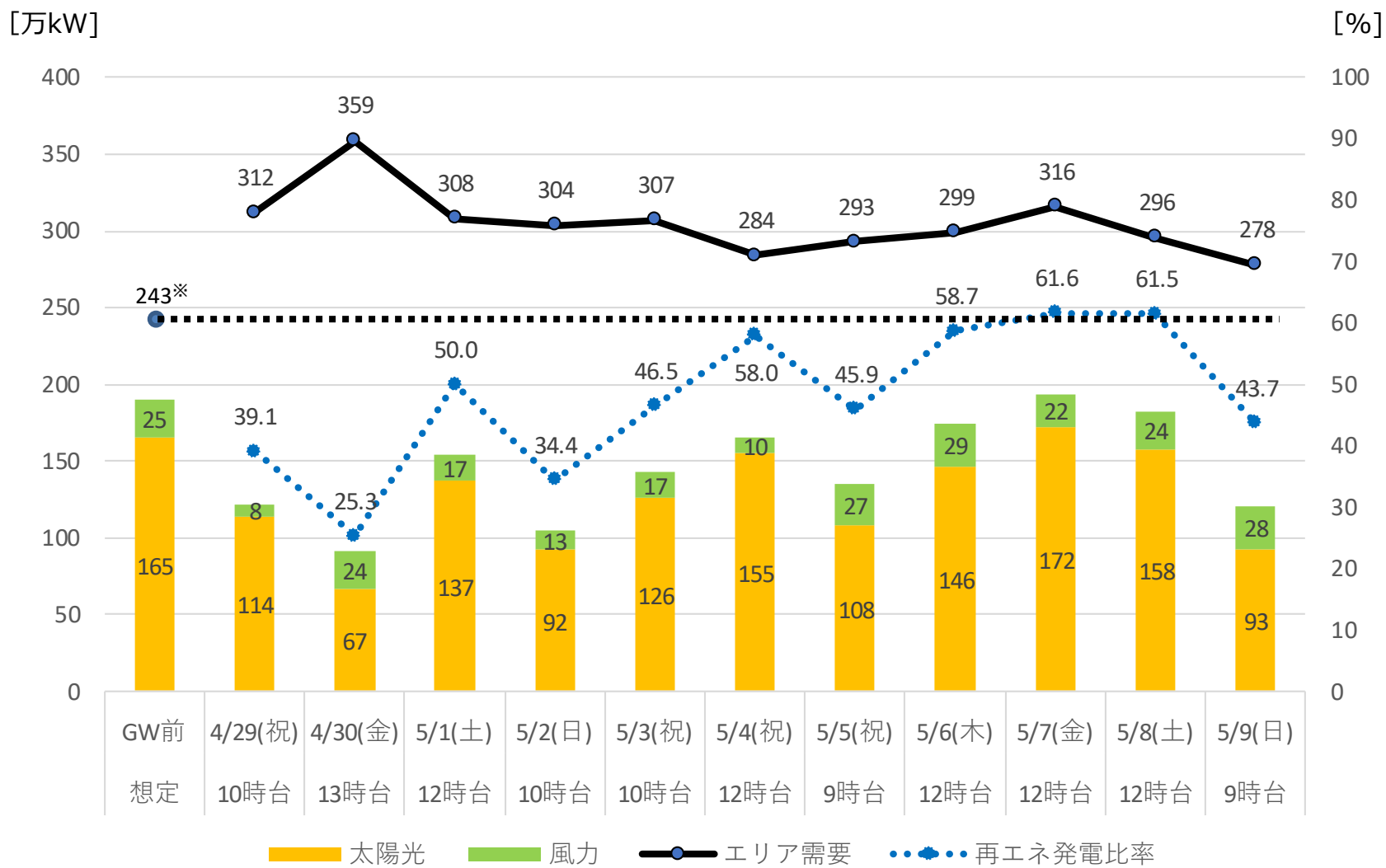
北海道エリアにおける
2021年GWの需給実績について
(報告事項)

2021年 6月8日
北海道電力ネットワーク株式会社

- 今年のGW期間中（4/29～5/9）は、5月4日および期間後半は晴天の日もありましたが、期間を通じて曇りや雨の日が多く、エリア需要は昨年を上回りました。
- また、天気が良く再エネが高出力となった時間帯においては、火力発電設備の出力抑制や揚水発電設備の揚水運転等を実施することにより需給バランスを維持し、再エネの出力制御を回避することができました。
- 期間中のエリア需要に対する再エネ発電比率が最も高くなったのは、5月7日12～13時の61.6%でした。
- GW期間中、3日前および2日前時点においては弊社ホームページに出力制御の「可能性あり」※を掲載いたしましたが、前日時点において最新の情報に基づく需給バランスの見直し等により、出力制御の「可能性あり」を回避しております。

※5月11日までは融雪による高出水等を考慮して出力制御の可能性を判定しておりましたが、5月12日以降は水力発電を至近実績ベースで想定するなど、予測の算出方法を見直しております。

1. GW期間（4/29～5/9）の再エネ発電実績（再エネ発電比率最大時、送電端値）



※ 発電端値250

2. GW期間（4/29～5/9）の需給バランス（期間中の再エネ発電比率最大時、送電端値）

[万kW]

		2021年5月7日 12～13時	(参考) 2020年5月5日 12～13時
電力需要	エリア需要	316	256
	揚水・蓄電池	22	42
	本州への送電	53	47
	計	391	345
発電出力	水力・地熱	80	82
	太陽光	172	137
	風力	22	21
	火力	95	91
	バイオマス	22	14
	計	391	345
再エネ発電比率 (太陽光 + 風力) / エリア需要		61.6%	61.7%

※ 昨年と比較して再エネ出力が増加しましたが、本年5月7日は平日のためエリア需要が高く、本州への送電量が多いことから、揚水運転量および火力発電設備の出力抑制量は少なくなっています。